

## &lt;別紙1&gt;

## 第三者評価結果報告書

## ① 第三者評価機関名

ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

## ② 施設・事業所情報

名称：第2くまのこ園	種別：認可保育所	
代表者氏名： 川口 ちか子	定員（利用人数）：60(58)名	
所在地：川崎市多摩区菅稲田堤3-1-2    ロワーゾーブリュー1階		
TEL： 044-819-5263	ホームページ： <a href="http://kumanokoen.com/dainikumanokoen/index.html">http://kumanokoen.com/dainikumanokoen/index.html</a>	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日 2016年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社prior		
職員数	常勤職員：16名	非常勤職員：7名
専門職員	保育士 18名	看護師 1名
	栄養士 2名	調理員 1名
施設・設備の概要	（居室数）	
	0・1歳児室	1室
	2歳児室	1室
	3～5歳児室	1室
	医務室・事務室	1室
	調理室	1室
	（設備等）	
	鉄骨3階建て 1階部分	
	敷地面積 497.44㎡	
	園舎面積 239.68㎡	
	園庭面積 90.00㎡	

## ③ 理念・基本方針

<p>【保育理念】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集団生活を通し、遊びの中から好奇心を引き出していく</li> <li>・様々な体験を通じて、豊かな感性と生き抜く力を培っていく</li> </ul> <p>【保育目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・元気に挨拶できる子</li> <li>・他人を認められる子</li> <li>・意欲的に遊べる子</li> </ul> <p>【運営方針】</p> <p>①保育園は、社会生活のはじまりです。様々な体験を通し基本的な生活習慣や社会ルールを身につけ、「生きていく力」を培っていきます。</p> <p>②子ども一人ひとりの「自立・自尊」を目指し、職員は言葉かけや環境作りについて学び合っています。子ども達の「やりたい気持ち」を大事に育てていきたいと思えます。</p>
---

## ④ 施設・事業所の特徴的な取組

<p>【立地および施設の概要】</p> <p>第2くまのこ園は、JR南武線 稲田堤駅より徒歩約5分の線路沿いにあります。京</p>
---

王稲田堤駅も近く、東京方面への通勤に便利な立地です。駅前にある「保育所くまのこ園（平成13年開所 定員30名）」の系列園で、様々な事情を抱えた保護者の就労支援を目的として無認可保育所からスタートし、平成28年に当地で認可保育所として開園しました。園舎は3階建てマンション1階のワンフロアで、テラス風の園庭には線路の絵が描かれ、カラフルなボルダリングの壁を設えています。多摩川が近く、周辺には稲田公園をはじめとする大小の公園や梨園が多くあります。0歳児から5歳児まで現在58名（定員60名）の園児が在園しています。

【園の特徴】

延べ床面積は約240㎡と限られているものの、スペースを工夫して効率良く活用し、狭さを感じさせません。自然に恵まれた周囲の環境を活かして、散歩に毎日出かけています。特色ある保育として、体操教室、書道教室、ピアノ力指導、農業体験を取り入れています。少人数のため、職員間のコミュニケーションも取りやすく、職員はクラスに関わらず子どもによく声をかけ、家庭のような温かい雰囲気があります。豊かな感性と生き抜く力を持った意欲的に遊べる子を育てることを目標とし、小規模でも質の高い、選ばれる保育園を目指しています。

⑤ 第三者評価の受審状況

評価実施期間	2021年5月19日（契約日） ～ 2022年4月9日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回（初回）

⑥ 総評

◇特に評価の高い点

1. 子ども一人ひとりと丁寧に向き合う保育

職員は、子どもの話をよく聞き、自分でやりたい気持ちや考えを尊重して援助しています。子どもが安心して自分の気持ちを表現できるように、スキンシップを多く持ち、常に穏やかに話すよう努めています。共感と受容を大切にし、「ダメ」等の否定的な言葉を使わず、肯定的な言葉に言い換えるように留意しています。子どもが自分でできた満足感や達成感を持てるように、できないところはさりげなく手伝ったり方法を伝えたりしながら、励まし、できたときにはほめ、一緒に喜んでいきます。トイレに行きたくない、給食が食べきれない、散歩に行きたくない、まだ遊びを続けたいなど、それぞれの子どもの気持ちを受け止め、一人ひとりに寄り添い、安心して過ごせるように援助しています。

2. 保護者との良好なコミュニケーションと連携

園は保護者とのコミュニケーションを大切にしています。少人数の規模を生かし、日々の送迎時には一人ひとりの子どもの様子を詳しく伝えていきます。0、1歳児は連絡帳で毎日の園と家庭での活動や生活について情報交換し、2歳児以上は任意のノートを必要に応じて活用しています。専用アプリがあり、一斉配信やクラス別配信をして緊急事項等を連絡するなど、伝達手段を使い分け家庭との連携を密にして子どもの生活の充実を図っています。

利用者家族アンケートでは、送迎時の子どもの様子の説明、保護者からの相談事への対応について、肯定的な回答が100%で、高い満足度となっています。園でも行事前後にアンケートを取り、保護者の意向の把握に努めています。コロナ禍での運動会開催については、アンケートで保護者の意見を収集し、園の考え方やアンケート結果を示しながら丁寧に検討を重ね、保護者の協力を得て運動会を実施しました。

### 3. 非常勤職員も含めた少人数グループによる園内での学び

園長が職員から年度始めに学びたいテーマを募り、非常勤職員も含め小グループに分かれて年間を通して学習する取組をしています。中間発表及び年度末の発表により全職員で学んだ内容を共有しています。令和3年度には多摩区より依頼を受け、園内研修で学び合った「すき間時間の有効な使い方について」の研修成果を、多摩区保育内容伝達研修で他園に向けて発表しました。

#### ◇改善を求められる点

##### 1. 中・長期計画の策定

運営法人の経営者でもある園長の構想として、理念や基本方針の実現に向けたビジョンは明瞭ですが、明文化には至っていません。職員や保護者等とも明確に共有できるよう、可視化した中・長期計画の策定が求められます。また、単年度の事業計画は、中・長期計画を踏まえて作成することが求められます。

##### 2. 園の自己評価への職員の参画

園の自己評価は職員の意向を反映して園長が毎年実施し、結果は回覧したりファイルを園内に設置して職員と共有しています。自己評価は職員参画のもと組織的に実施し、課題の明確化および改善策を検討してさらなる質の向上に計画的・継続的に取り組むことが望まれます。

##### 3. 園に即した総合的な人事管理の仕組みづくり

福祉人材の確保・定着等に関する具体的な方針や計画の策定、昇進・昇格等の基準の明確化については、まだ整備途上です。職員が将来の見通しを持てるような仕組みづくりが期待されます。

#### ⑦ 第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

第三者評価結果報告を受けて

令和4年4月19日

開園6年が経過し、第三者評価を受審することといたしました。職員全員がかなりのボリュームのあるアンケートに答え、その後、小グループごとに話し合う事により、具体的な園の姿勢や保育業務一つ一つと向き合う機会になりました。当然知っているものと思っていた事柄に誤差があったり、担任、フリー、パートなど役割によって感じ方の相違が見え、繰り返し確認していく事の大切さに気付きました。中、長期事業計画に関しては全く職員に説明の機会を持たなかったため、理解されていないこともわかりました。年度初めの時期や、園内研修時に話し合う機会を持ちたいと思います。保育内容、保育運営に関しては項目を追って考えていく中で、日々の保育の振り返り、グループで話し合う機会が出来た事は今後の保育の指針となり、各自の自信にもつながったと思います。また利用者アンケートでは回答率が非常によく内容的にも多くの保護者の皆様にご指示をいただいていることは、保育者にとって大きな喜びでモチベーションアップにつながりました。

園長 川口 ちか子

#### ⑧ 第三者評価結果

別紙2のとおり